

的とする。昭和23・2・18免許，同24・11・18吉原・吉原本町間をはじめ逐次開業し，同28・1・20までに全線営業開始。

未成線 吉原市伝法南川原（日産前），鷹岡町（入山瀬）間5.4km，動力電気，軌間1.067m，昭和27・11・25免許，工事施行未認可。

3 運輸上の特色

本鉄道沿線は古来駿河半紙の産地で，製紙工場100を数え，年産19億ポンドに達し，したがって貨物輸送は木材・紙・パルプ・石炭がおもである。

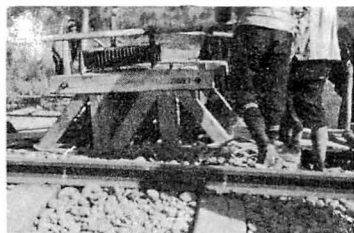
4 運輸概況

年 度 目	昭 和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	4,305	3,694	3,541
人キロ(千)	15,365	13,761	11,637
貨物輸送トン数(千t)	463	437	506
トンキロ(千)	2,005	1,921	2,222
旅客収入(千円)	34,155	34,996	34,638
貨物収入(〃)	53,151	52,178	63,174
運輸雑収(〃)	3,395	3,501	3,909
収入合計(〃)	90,701	90,675	101,721
営業費(〃)	69,218	70,216	82,956
営業利益(〃)	21,483	20,459	18,765
営業係数(%)	76	77	79

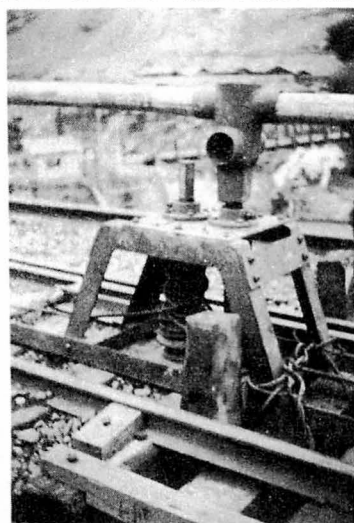
(原 功)

カグラサン 全部木部をもって組立てられた巻上機で木造のウ

インチ。構造は図のようなもので木枠(きわく)の中に丸い軸柱を立て込み，その軸の上部に細丸太を差込み，引張る重量によって2人・4人または8人で木枠の回りを差込んだ丸太を手で押しながら回ると，それによって軸柱は回転し，軸柱に巻きついたワイヤロープが引張られることによって重量物をひくことができる。木造なので軽いから荷がかかるとカグラサンが引張られたり浮上ったりするから，しっかりと台付(引き止め)をとっておく必要がある。カグラサンは逆転防止設備がないので，重量物を斜めに引上げたり，引張る途中で止めたりするときは，逆転すると危険であるからワイヤロープは軸柱に1巻きして，その端は手巻ウインチで巻取るようにするとその心配はない。またこの方法はウインチのようにドラムの巻取量に制限がない



1. 木製カグラサン



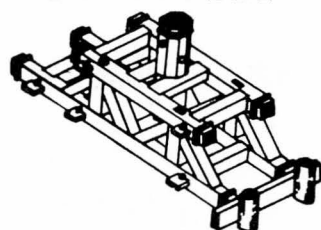
2. 鉄製カグラサン

から，ロープの盛り替えの必要がなく，所要の長さをエンドレスに引くことができる。カグラサンは1回転しても軸柱の周長だけの巻取りで，巻上げ速度がおそいから，重量物を徐々に引く必要のあるときに用いられる。橋桁(はしけた)架設などではプレートガーダーの巻上げ，トラスの横取り，プレートガーダーを何連も継いで縦引きするようなときによく用いられる。最近では鉄製のもので，逆転防止設備をもったものも用いられている。(白鳥謙一)

かくりしゃ 隔離車 鉄道により輸送される貨物の中には，その貨物の性質上発火爆発等のおそれのあるものが少なくない。このような危険性のある貨物を積載した貨車を輸送する列車の組成方は，ある種の制限が加えられている。その制限の1方法として，危険のおそれのある貨車と他の貨車または機関車との間隔をもたせるために，その中間に危険でない車両を連結している。この車両を隔離車という。(菅野太次)

かけひ 架橋 線路が切取部において主として水路等の人工小水路を横切るとき，水路は上方にあってしかも施工基面と水路との高低差が相当にあって建築限界をおかさないだけの余裕があるとき設ける建造物。国鉄では水路幅1m以下のものを架樋といひ，水路幅1mをこえるものを水路橋という。構造上は水路と支柱とからなり，水路は溝型コンクリートまたは管類とし，支柱は古軌条・鉄筋コンクリート等で造られる。建造物が線路をまたぐので建築限界をおかさないことと，水路の溢水・漏水のない施工が肝要である。(尾崎 寿)

3. カグラサン組立図



架 樋

かげんべんそうち 加減弁装置(蒸気機関車の)(英) throttle valve rigging 機関車のボイラからシリンダに供給する蒸気を加減する装置で，加減弁の開閉によって行いその操作は運転室で行う。加減弁は普通蒸気ドーム内に設けるが外国では煙室加減弁も用いられている。

加減弁装置は加減弁からシリンダへ蒸気を導く部分と，加減弁を開閉操作する部分から成っている。後者には引棒をボイラ内に通したものと，図-1のようにボイラ外に装置したものがある。ボイラ外のものは点検保守に便利で作用軸部のパッキンが損傷しても噴出する蒸気は運転室を遠く離れており，保安上にもよいので最近の機関車はみなこの式になっている。

図-1において加減弁(1)はなるべく乾燥した蒸気をとるため，蒸気ドーム内高処に加減弁取付管(4)に取付ける。加減弁取付管は鋳鉄製で蒸気ドーム内取付座に取付け，下部はエルボ形になって乾燥管(4)と結合する。乾燥管は鋼管の両端にフランジを付けたもので，前方のフランジは外周部が玉継手と同形状で，煙室管板と管寄せの間にはさみ管寄せとともに締付ける。蒸気は管寄せから過熱管・蒸気管を経てシリンダに至る。